

小中連携だより

No. 46



令和5年12月21日(木)

広田小中連携推進会

文責 広田小学校 副校長 川口 耕治

広田中学校 主幹教諭 前川 勝則

原点回帰“これまで…、これから…” ③

～「小中一貫型教育」の取組～

今日で2学期が終わります。2学期は、学校教育において実りの時期であり、様々な学校行事をとおして、子どもたちが大きく成長する期間でもあります。【原点回帰“これまで…、これから…”】。第3回目のテーマは、『～「小中一貫型教育」の取組～』です。今回は、2学期に実施された学校行事の取組を振り返り、児童・生徒の活躍を紹介します。



『体育大会』

9月19日(火)、第33回体育大会が開催されました。雨による順延を経ての開催となりましたが、中学生の力強い走り演技、最高学年としての成長が見られた6年生の活躍が融合し、素晴らしい体育大会となりました。3年生が見せたリーダーシップは、次年度に引き継がれていくことでしょう。



大会後に行われたブロック別の集合写真撮影では、達成感に満ちあふれた子どもたちの表情が印象的でした。

大会後に行われたブロック別の集合写真撮影では、達成感に満ちあふれた子どもたちの表情が印象的でした。

『小学6年生 部活動体験』

小中一貫型教育が始まった当初から続いている「部活動体験」を今年度も実施しました。部活動は、中学校生活において意義深いものです。ここでも、中学生の「先輩」としての姿が見られ、小学6年生・中学生が共に良い刺激を受けていました。1月30日(火)に、今年度最後の部活動体験が予定されています。6年生の多数の参加を、先輩たちも楽しみにしています。



『文化発表会』

芸術の秋10月20(金)、午前中に合唱の部、午後からステージ発表の部が行われ、校内には児童・生徒の心のこもった作品が多数展示されました。多くの保護者・地域の方々にも来場いただき、充実した1日を送ることができました。文化発表会を終日開催している学校は減ってきていますが、広田中学校はそれを継続しています。それぞれの「ひたむき」な取組から学ぶものは大きいため、次年度も感動的な文化発表会を創っていきます。



『プレゼンテーション交流会』

今年度、広田中学校では「プレゼンテーション教育」を研究・実践しています。中学3年生の生徒は「修学旅行」をテーマに小学6年生へ、中学1年生の生徒は「ふるさと歴史発見学習」をテーマに小学5年生へ、それぞれプレゼン発表を行いました。3学期の授業参観で、中学2年生が「職場体験学習」をテーマに小学5年生へプレゼン発表を行う予定です。



『マラソン大会』

12月15日（金）、学校周辺の周回コースを使って、マラソン大会を開催しました。今年度は、感染症防止等の観点から、駅伝大会をとりやめ、「小6・中3」、「中1・中2」学年別マラソンのみの実施となりました。

最後の児童・生徒が走りきるまで、温かい声援を送る子どもたちの姿に、広田の子どもたちの心の成長を感じました。保護者の皆様方、応援ありがとうございました。

保護者の皆様へ

週末から冬季休業（冬休み）に入ります。小中学校共に、「冬休みの生活心得」が配付されています。どうか、子どもさんと一緒に熟読の上、子どもさんの生活のリズムが崩れないよう、ご家庭での声かけをお願いいたします。SNSやゲームについては、保護者の責任のもとルールを決めて、利用させてください。少々古い資料ですが、少年サポートセンターが発行しているサポート通信（平成27年3月2日発行）のコラムを紹介します。

『持たせる覚悟、持たせない覚悟』

今や多くの少年たちが、小学生の頃からスマートフォン、ゲーム機、音楽プレイヤー等インターネットに自由にアクセスできる環境にあり、LINE、Facebook、Instagram等のコミュニティサイトにより、大人が知らない新たな人間関係を築いています。その中で、さみしい者同士がつながって家出したり、悪意のある大人にそそのかされたりして、性的被害を受ける少年たちが後を絶ちません。

平成26年中の長崎県内におけるコミュニティサイトをきっかけとした福祉犯罪被害少年は32人で、前年に比べ9人増加しており、そのほとんどが性的被害です。内訳を見ると、高校生約72%、中学生約13%で、女子中・高校生が性被害を受けています。

また、コミュニティサイトへの書き込みが原因でトラブルになり、いじめや不登校、暴行・傷害事件に発展するケース、ネット依存症になり昼夜逆転の生活になるケースもあり、インターネットの問題が少年たちに大きな影響力を及ぼすことがうかがえます。

進級、進学を機会に、子どもからスマホを「買って」とねだられる保護者も多いと思います。まずは、親子で「今、本当に必要か?」「使い方のルールを守れるか」を話し合ってください。スマホを持つことで起こりうるトラブル、危険性について、家庭でしっかり確認してください。保護者が、持たせないと判断した場合は、子どもから相当の反発にあっても貫き通す覚悟で、持たせる場合は、子どもが被害に遭う危険性や生活リズムが一変することを覚悟して、子どもにスマホを持たせるか否か慎重に判断しましょう。



☆ 広田中学校のホームページに、小中連携だより（カラー版）を掲載しております。